

「しつけ」なんて古いのかナ？

トップページの下段でアドレスをご案内していますように、私はブログも綴っています。ホームページは原則的に月に1回の更新ですが、ブログはできるだけ毎日、新しい記事を書けるよう努力しています（多忙だったり、面白いネタが見つからなかったりして、ときどき続かないこともある）。

この欄もネタに窮することがあり（たまには秋の花「コスモス」などを取り上げ、自然の恵みや移り変わりを爽やかなタッチで、なんて思ったのですが、なかなか面白くまとまらない）、今回はブログでヒットした話題についてもう少し掘り下げてみたいと思います。



いつもの3倍のアクセスがあったのは次の記事でした（ブログでご覧いただいた方にはダブリのご容赦を！）。

電車で化粧する女性に一言

日曜日の朝。JR 中央線の立川駅から乗ってきた20代と思われる彼女は、私の隣の席に座るやいなや大きな下げ袋から化粧道具を取り出した。幅15センチ、長さ20センチほどの大きめな鏡を左手にすると、じっと覗き込んだ。そして眉毛を描く筆を右手に入念な手入れを始めた。次に頬におしろいを塗り、続いてその上に頬紅を塗った。さらに今度はその塗り具合を何回も調整しなおし、結局、新宿駅へ到着するまでの30分あまり、周囲には一切目もくれずに化粧に専念していた。ちょっとした化粧崩れを直すのだったらやむをえまい。でも、ここが「本格的な化粧の場」とも思えたのだった。

ときどき新聞の声欄等で、最近の若い女性の車内での化粧に対する苦言を読んだことがある。年配の婦人だったら彼女をたしなめたかもしれない。でも、古希のおじさんがすることでもあるまい。横で少々いらいらしながらも何も言えず、広げた新聞に目を通していた。他人に迷惑をかけない限り何をしても自由かもしれない。車内での化粧も特に迷惑というわけでもないし、また男性が口を挟むべきことでもないのだろうが、かつての日本女性の奥ゆかしさが失われゆくのが気になるのである。



少し前、どこかの投稿欄で、電車内にこうした風潮を皮肉った川柳を貼ったらどうだろうか、との提案を見た。「電車内 化粧する人に 美人なし」。実によく言い得ている。ちなみに、今朝の彼女もこの句にピッタリだった。

アクセスが多かったのは共感からでしょうか？大きな反響に私はこれをある新聞の投稿欄に送ったのですが、採用されませんでした。最後の一言がきつ過ぎるからでしょうかね。

訴えたいことは、今、家庭で「しつけ」がなされていないことなのです。私は今、幼児から高校生までの子どもたちの集まる施設で受付の仕事をしています。そこでの入館票の提出の際も、よくできる子とどうしようもない子がいます。そんな嘆きを同僚に語りかけたところ、次のような回答でした。

「仕方ありませんよ。子どもたちの親自身がキチンとしつけ教育を受けていないんだから・・・」

どうしたらよいのでしょうか？電車内と同じにそのまま放っておく？それとも“うるさいおじさん（「おじいさん」かな？）”と言われても、その都度、注意し教えてあげる？